

# 「美の滋賀」の発信について

教育・文化スポーツ常任委員会 資料1-1  
令和2年(2020年)2月12日(水)  
文化スポーツ部文化芸術振興課

H29年4月～ 近代美術館休館

H20年4月～ 琵琶湖文化館休館

H30年度

方針:「美の滋賀」の拠点となる美術館を目指す。

【対応すべき課題】

- ①近代美術館の老朽化対策(再開館後、近代・現代美術とアール・ブリュットを扱う)
- ②琵琶湖文化館の機能継承のあり方検討 → ③新生美術館基本計画の見直し(狭あい化等、美術館機能向上の検討)

県民の皆様の「収蔵品等の鑑賞機会」、  
「作品の発表機会」が失われている

緊急に対応が必要な、必要最小限の  
老朽化対策を施し、早期の再開館を目指す

・文化財保護法の改正  
・県文化財保存活用大綱の策定等

文化財をより適切に保存・活用する視点から再検討

R1年度

①近代美術館  
老朽化対策

②琵琶湖文化館の機能継承のあり方検討

検討方向

~~近代美術館の拡張~~  
●組織:美術館と統合  
●施設:美術館と統合

~~分館を準備~~  
●組織:美術館と統合  
●施設:独立

独立性の高い施設を整備  
●組織:独立  
●施設:独立

R2年度

老朽化対策設計  
R1 33百万円  
【執行済】

工事・監理  
R1補 1,126百万円  
【H31予算で  
債務負担行為設定】

再開館関連費  
(備品等)  
R2 226百万円

移転・保管経費  
R2 50百万円

③新生美術館基本計画の見直し(→「美の滋賀」発信方策の検討)

●学芸課長職の選任

●プロジェクトリーダー選任

新生美術館基本計画

運営計画・  
施設整備  
計画中心  
に見直し

施設の連携による「美の滋賀」の発信

近代美術館  
「美の滋賀」の中核機能  
近代・現代美術  
アール・ブリュット

琵琶湖文化館後継施設  
文化財の保存・継承・活用・発信の  
拠点の1つ  
神と仏の美

連携

「美の滋賀」発信方策 R2 1.2百万円

- ・「美の滋賀」発信方策(各施設の連携)
- ・連携の中核となる近代美術館の役割
- ・近代美術館の整備内容(狭あい化、交流・アメニティ機能)

琵琶湖文化館後継施設  
基本計画 R2 8百万円  
・後継施設の運営計画・整備計画  
・他の文化財拠点施設との連携等

R3年度以降

(R3年度早期)  
老朽化対策後再開館  
●学芸職の館長選任  
近代・現代美術  
アール・ブリュット  
「神と仏の美」の展示

再開館に伴う活動方針

狭あい化  
対策等、  
機能向上  
(設計・工事)

反映  
近代美術館の  
新たな展開の  
検討

反映

琵琶湖文化館後継施設建設  
(PFI手続き、設計・工事)

●館長選任

休館中の収蔵品の移転・保存・活用

R?年度

●運営体制の検討  
(R?年度)  
近代美術館機能向上  
近代・現代美術  
アール・ブリュット  
「神と仏の美」の展示

「美の滋賀」発信拠点のイメージ

「美の滋賀」  
連携の中核

連携

(R?年度)  
琵琶湖文化館後継施設開館

神と仏の美

文化財保存活用の拠点

- NO-MA
- やまなみ  
工房
- 安土城  
考古  
博物館
- 埋蔵  
文化財  
センター
- 琵琶湖  
博物館
- 市町立  
博物館
- etc

「美の滋賀」づくりの推進